

令和5年度選書・除籍について（報告）

選書については、市と指定管理者の司書の合議制で行っています。市の示した選書の方向性に沿って指定管理者が年度の資料収集計画を作成し、実際の選書や選定会議を経て、市が最終確認及び資料購入の決定を行っています。

■ 選書の前提

- ・ 4館を一元化した資料管理とし、市立図書館として一体的な蔵書構成を図る。
- ・ 図書館としてストック（保存及び長期に利用する基本図書）する資料とフロー（比較的短期間で入れ替わる図書）する資料のバランスに留意した選書を行う。
- ・ 中央図書館、地区館ともに基本図書を体系的に収集する。
- ・ 中央図書館は拠点館として地区館を補完する多角的な選書を行い、地区館は地域ニーズを反映した選書を行う。

■ 令和5年度の選書の方向性

1. 各主題において情報活用やリテラシー獲得を進める基本的な資料の選書

図書館では、市民が生活や仕事上の課題について自己決定するための資料提供と情報活用支援を事業の最重点としている。選書においては、図書館の役割を踏まえ、どの分野においてもエビデンスに基づく適切な図書を判断する。また、参考図書・調べ学習資料は、デジタル資料を併用しながら基本図書を充足する。

〈実績・評価〉

- ・ 情報活用や調べ方に関する資料については、社会の関心の高まりからか出版も増えており、手取りやすい資料を選書することができた。
- ・ 市民への情報提供に資する資料については、内容の確かさや著者の専門性、出版社などを確認の上選書した。

〈課題〉

- ・ 引き続き、確かな情報をわかりやすく伝える資料を収集するとともに、幅広い世代に向けて情報リテラシーを身に付けるための資料を選書していく。
- ・ 児童向けのオンラインデータベースの導入など、こどもの調べ学習の支援を拡充していく。

2. 図書館利用拡大のための未利用者に向けた選書

すべての市民の生活向上のため、図書館利用の拡大を図る。そのために、顕在化しているニーズに対応するだけでなく、社会の動向を注視し、未だ図書館を利用していない市民に向けた資料や情報を収集する。

〈実績・評価〉

- ・図書館利用の少ない10代・20代に向けて、学び方や働き方、暮らしや趣味の楽しみを広げる本など幅広い分野の資料を収集した。
- ・情報の確かさや内容に留意しつつ、インターネットやSNSなどのメディアの情報も参考に多様なニーズを捉え、より多くの市民の利用に応えられるよう蔵書の幅を広げる選書を心掛けた。

〈課題〉

- ・引き続き、図書館利用拡大のための方法を研究するとともに、魅力ある蔵書にするための情報収集を継続する。

3. 誰もが利用可能なユニバーサル資料の拡充

発展著しいデジタル資料を含むさまざまな形態の資料や提供方法に留意し、障害者、高齢者、日本語が母語でない者、子ども等、誰もが利用可能なユニバーサル資料を拡充する。

〈実績・評価〉

- ・児童向けにも購入した大活字本やLLブック、点字付き資料などのバリアフリー資料のほか、外国語対訳資料、ビジュアルでわかりやすい資料にも留意し選定した。また、QRコード付きで動画や音声を視聴できる資料も、ユニバーサル資料として選書した。

〈課題〉

- ・引き続き、読書活動に困難のある利用者をはじめ誰もが利用しやすい資料の収集と、ユニバーサル資料として活用できる資料についての研究を行っていく。

4. 一般書の基本図書の充実

図書館では、市民の学習や情報取得に役立つ入門書、教養書、実用書、専門書等の基本的な図書をそろえる。また、基本図書と利用者のニーズの高い資料のバランスに留意し、多くの市民の理解を得られる蔵書構成を目指す。

※基本図書とは、ある分野の学習・研究上、最小限必要と考えられる図書類のこと。

図書館において蔵書の中心となるような標準的な図書群を指す。

〈実績・評価〉

- ・利用の多い分野だけでなく、図書館にそろえておくべき基本的な図書について、買い替えも含め選書した。手に取りやすい入門書から、中央図書館では学術的な専門書まで幅広く選書した。

〈課題〉

- ・引き続き利用の多い資料とのバランスにも留意し、出版年の古い資料も含め、各分野の基本図書を収集する。

5. 児童書の基本図書の買い替え

児童図書は長く読み継がれているスタンダードな図書（基本図書）を蔵書の核とするとともに、司書による新刊書の評価を継続する。すべての図書館で、基本図書を必要数備え、常に更新（買い替え）することで、児童や保護者が、それらの本と出合える機会を増やす。

〈実績・評価〉

- ・全館で基本図書の買い替えを継続した。長く読み継がれている図書をきれいな状態で書架にそろえておくことができた。
- ・新刊評価を継続し、基本図書の評価基準の共有化を図った。

〈課題〉

- ・引き続き長く読み継がれている図書の買い替えを行うとともに、近年出版された本の評価についても蔵書に反映していく。
- ・基本図書の買い替え及び新刊評価を継続するにあたり、選定基準を理解し、選書に必要な知識・経験を備えた司書を育成していく必要がある。

■ 市が担当した業務

1. 地域資料

〈実績・評価〉

- ・東久留米市及び関連の地域の資料については、一般に流通している資料の中で該当するものに留意し選書した。市内各団体の配布物や情報誌等は、図書館に送付される資料のほか、市内施設を巡回し収集した。
- ・多摩地域の資料について、所蔵のない資料を各市から取り寄せるなど積極的に収集した。
- ・行政資料については、秘書広報課と連携した収集と受け入れの体制が順調に機能し、収集することができた。

〈課題〉

- ・郷土資料・行政資料ともに、引き続き基準に則って収集を進める。
- ・地域資料の収集をさらに進めるため、展示やイベント等を通じて、市民や市内団体に収集への協力を呼び掛けていきたい。

2. 参考図書

〈実績・評価〉

- ・一般書と同様に、類書の少ない分野の資料や更新が必要な基本図書を選書した。
- ・百科事典のオンラインデータベースについて、来年度に向けて児童向けのデータベースへの入れ替えを検討した。

〈課題〉

- ・引き続き、各分野の基本図書の確認・更新を行っていく。
- ・調査・資料室にコーナーを設けている児童文学研究の資料についても整理を進め、選書に

つなげていく。

3. ハンディキャップサービス資料

〈実績・評価〉

- ・市立小学校全校へのユニバーサル資料の貸し出しのため、さわる絵本やLLブックのほか、外国語を併記した資料、誰もが楽しめる図鑑などを選定した。
- ・マルチメディアデイジー資料について、引き続き一般貸出用資料を増やした。

〈課題〉

- ・次年度以降も、小学校へのユニバーサル資料の貸し出しを継続する。
- ・ハンディキャップサービス資料については、デジタルも含めた多様な資料について検討していく。

■ 除籍

〈実績・評価〉

- ・除籍基準及び除籍フローに基づき適切に行った。地区館及び中央図書館部門別選定会議で行った除籍について市が最終確認を行い、疑義がある場合はその都度担当者間で検討し、慎重に判断した。
- ・市の最終確認においては、除籍候補資料から地域資料（必須保存）や基本図書（時代性、学術的価値、利用度、類書を勘案）、タマラス資料について検討した上で除籍の決定をしている。

〈課題〉

- ・除籍事由を明確化し、複数の目で資料を確認する除籍フローにより、引き続き丁寧に除籍を進めていく。
- ・除籍検討を行う司書の収集方針の理解と、基本図書を判断する知識・経験が必要である。

※タマラスとは、「多摩地域公共図書館蔵書確認システム」の通称。

東京都市町村立図書館長協議会で定めたルールに基づき、多摩地域で最後の2冊となる資料を保存するよう（例外あり）、同システムを利用し除籍検討資料を確認している。

令和5年度資料収集計画の実績と自己評価

指定管理者 TRC・野村不動産パートナーズグループ
代表団体 株式会社図書館流通センター

■「令和5年度 資料収集計画」について

- ・令和5年度は、10代・20代の図書館の利用率が低い現状に対し、将来の利用者層といえる多様な価値観を持つ若い世代にとって魅力ある蔵書を目指した選書を行った。
- ・全館において、コロナ禍を経た社会状況の絶え間ない変化の中で、個々の市民が抱える多様な課題と困難の解決に寄与する資料を収集した。
- ・地区館については、これまでの利用状況や地域性を考慮に入れ、滝山図書館では「シニア世代」と「10代」、ひばりが丘図書館では「子育て世代」、東部図書館では「定年前後の世代」に向けての選書に力を入れた。

➤ 多様な価値観を持つ10代・20代を意識した選書

【自己評価】

- ・同世代の多様化する価値観に合わせ、さまざまな働き方を紹介する資料のほか、投資などによる資産形成の参考となる資料を選定できた。
- ・SDGsの実現や社会、地域への貢献をするための参考となる、さまざまな事例や取り組み方を知ることができる資料を選定できた。
- ・具体的な情報収集の方法や、氾濫する情報に対する姿勢を学べる資料など、同世代が確かな情報を取捨選択し、それを活かすために役立つ資料を選定できた。
- ・自身の生活の質を向上させ、人生を楽しむに当たって参考となる資料を選定できた。

【課題】

- ・同世代の多様な価値観や、関心を集めているトレンドに留意した選書を継続する。
- ・選書の観点から同世代の来館や貸出につながる方法を引き続き検討していく。

➤ 利用者の課題や困難に対応する資料の選書

【自己評価】

- ・文字による読書が困難な当事者のほか、支援者や周囲が理解するために参考となる資料の提供ができた。
- ・個人や社会におけるさまざまな課題に対する考え方や、法律・制度面の変化に対応し、解決につなげていくために資料の更新を進めることができた。
- ・最新の情報や知識を得るための入口となる入門書を積極的に収集できた。

【課題】

- ・引き続きユニバーサル資料の充実を図る。
- ・変化を続ける法律や社会通念に留意し、資料の更新を継続する。

➤ 児童書

【自己評価】

- ・新刊評価のほか、都立図書館や東京子ども図書館などの書評をもとに、当初選定を見送った資料についても丁寧に再度検討を行うことで、評価の高い資料の収集につながった。
- ・点字付き絵本やLLブック等、バリアフリー資料を積極的に購入したほか、今年度は初めて児童向けの大活字本を購入した。
- ・ティーンズ資料について、ジャンルにこだわらずさまざまな悩みに対応できる資料を選定できた。

【課題】

- ・バリアフリー資料のうち、平仮名やイラスト、写真を多用し分かりやすく構成された資料は未だ所蔵が少ないため引き続き収集に努める。

➤ 滝山図書館

【自己評価】

- ・健康・医療分野の買い替えと更新が進んだ。病気や薬の解説書のみならず、レシピ本や体験談など、病気についてさまざまな角度から知ることができる資料が購入できた。
- ・障害者支援については解説書・関連する法律書・実用書とバランス良く購入できた。
- ・児童書は英米以外の文学も選出し充実させることができた。また現代のこどもが置かれているさまざまな家庭環境を考慮して知識や心のケアを支援する資料を選定できた。

【課題】

- ・シニア世代の社会活動を知ることができる資料を引き続き積極的に収集する。
- ・教育・社会の分野においては、貧困問題に関する資料を引き続き収集する。
- ・ティーンズコーナーは、蔵書の中で不足している分野の洗い出しを進め、資料を補充する。
- ・児童の分野では教育環境の変化を観察し、対応できる資料をこれからも集めていく。

➤ ひばりが丘図書館

【自己評価】

- ・子育て世代に向けた多様化するさまざまな問題の解決方法や情報を提供する資料など、同世代にとって役立つ資料の選定ができた。
- ・一般書・児童書ともに順調に買い替えを進めることができた。
- ・科学分野の児童書は、対象年齢にも留意した買い替えと資料選定ができた。

【課題】

- ・日本語を母国語としないこどもに対し、英語以外の外国語話者に対応する資料について、引き続き内容を精査し選定する。

➤ 東部図書館

【自己評価】

- ・働く社会人の学びを支援する資料を収集できた。
- ・シニア世代の多様な生き方を支える資料を選定し、シニアライフコーナーの充実を図ることができた。
- ・古い入門書の買い替えや所蔵の少ない分野の資料収集に加え、基礎から応用まで網羅した資料の購入が進んだ。
- ・児童書は、複本の購入を積極的に行い、児童が楽しめる絵本・読み物が選定できた。子どもの成長と学びに必要な資料を充実させ、バリアフリーの資料を増やしコーナーを設けた。

【課題】

- ・引き続き、シニア世代の暮らしを支える資料を精査して収集する。
- ・児童書については基本図書として評価できる資料を選定し、引き続き新しい情報をとらえた学習資料・バリアフリー資料も選定していく。